

安曇野市教育委員会だより ふるさと安曇野

基本理念 ◇ すべての人が生涯を通じて学び合い、文化のかおり高い安曇野を目指します。 ◇ からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。

安曇野市の園小中グランドデザイン（試行版）について

—園小中連携、園小接続の更なる充実を願って—

教育長 橋渡 勝也

安曇野市は令和4年4月から、こども園幼稚園課と子ども家庭支援課を新設し、子どもを乳幼児期から学齢期まで切れ目なく育む体制を整えました。5年目を迎えた今、園と学校の連携について、改めて見つめ直してみました。

まず、園長先生と校長先生に、日ごろの思いをお聞きしました。園では「五感を使った沢山の経験や遊びを通して、やりたいことにのびのびと挑戦するような子どもを育てたい」、小学校では「園生活で育まれた芽をたくさん感じる。小学校でも引き継ぎ、さらに伸ばしていきたい」と、同じ方向を目指して日々取り組んでいただいていることがわかりました。そして、連携や交流のさらなる深化を双方が求めていることもわかりました。

そこで今回、毎年度作成している「安曇野市の教育の方針」の中の園と学校のグランドデザインを一つにまとめました。これにより同じ理念・目標を共有して歩んでいることをより認識できると考えました。

 安曇野市園小中グランドデザイン（試行版）は4Pをご覧ください。

大事なことは、子どもにとって、園から小学校へ進む時期は「具体的・直接的体験を通して、心身の成長の基礎を育むかけがえのないときであること」を共に理解した上で、園と小がその接続を丁寧に行い、その後の学びにつなげることが必要だと考えています。

そのために、子どもを園や小学校に合わせようとするのではなく、「子どもに合わせた生活や学びのあり方」を園及び学校関係者が一緒に考え、更なる実践を重ねていくよう期待しています。

(主な議案)

- ・令和9年度の「安曇野市の教育の方針」に係るグランドデザインの案について(承認)
- ・安曇野市子ども・子育て会議に係る委員、安曇野市誌編さん専門調査会(民俗部会)専門調査員の委嘱等について(了承)
- ・安曇野市議会 令和8年6月定例会における一般質問等について(了承)

次回定例会の予定

- ・10月定例会 10月28日(水) 午後1時30分から 市役所本庁舎301会議室 申込みなく傍聴できます

交通安全

実例から考えよう 起こり得る交通事故を防ぐために (4)

<実際の目撃事例>

小学生が放課後、児童館へ行くため横断歩道のない道路を横断しようとした時のこと。路上に駐車していた自動車の後ろから車道に出たところ、左手から走行して来た軽自動車の右側前部と、児童の左腕・ランドセルが軽く接触した。運転者は、児童が「大丈夫、児童館へ行く」と言ってその場を去ってしまったが交番に電話。警察官が児童館で児童に状況を聞き取り、事故処理が行われた。

(学校教育課・地域づくり課の交通安全担当者からのコメント)

急いで児童館へ行きたい子どもの飛び出し事故です。学校や家庭では、日ごろから道路歩行や横断し方、万が一自動車などと接触した場合にすべきことなどについて、子どもに繰り返し話して聞かせ、常に安全確認を意識させることが必要です。運転者の皆さん、下校時間帯には特に、慎重な運転をお願いします。なお、軽微な接触でも、警察への報告を怠ると処罰の対象になることがあります。

※この内容については、学校への注意喚起として情報提供します。

▲交通事故0プロジェクトの取り組みとして作成した市公式YouTubeチャンネルは引き続きご覧いただけます。

「これくらいの代償 中学生の僕が自転車事故の加害者になった日...?」(市内中学生が出演し安曇野警察署の協力で作成した動画)



動画はこちらから

新交通ルールで新たな行動を —生活道路 時速30キロに—

改正道路交通法施行令により本年9月1日から、中央線などのない幅5.5m未満の生活道路では、法定速度(最高速度)が時速60キロから時速30キロに引き下げられました。自動車のスピードを抑え、歩行者や自転車利用者を重大な事故から守ることがねらいです。ドライバーの皆さんには、狭い道路では特に“ゆっくりと走る”自覚とゆとりを持った運転をお願いします。

子育て支援

地元食材で価値創出プロジェクト* 「安曇野の日」

園給食では、安曇野市が合併した記念の10月を「安曇野の日」として定め、安曇野で育った食べ物を味わいながら、安曇野市の水や緑や空気がいつまでもきれいで、住みやすい場所であることを願って、「安曇野市のお誕生日」をお祝いします。

今年の献立は、ご飯(風さやか)、ニジマスのつぶら揚げ風、パンバンジー、かき卵汁、夏秋いちご、おやつはりんごスイートポテト、牛乳といった安曇野市5地域の特産を使った特別献立です。園児が地域の食に関心を持ち、自然の恵みやそこに携わっている方々への感謝の気持ちや食べ物を大切に作る気持ちを育てたいと願っています。

*第2次安曇野市総合計画の後期基本計画において、特に重点的・施策横断的に取り組むプロジェクトの1つ。



社会教育

図書館協議会をご存じですか？

図書館協議会は、市民の皆さんにとってよりよい図書館となるよう、運営やサービスについて意見をいただく機関です。学校教育や社会教育の関係者、家庭教育の向上などで活動しておられる方、学識経験者など、さまざまな立場の委員で構成されています。

8月27日に開催した今年度第1回の協議会では、図書館の利用状況や事業について報告し、「これからの図書館について」をテーマに意見交換を行いました。いただいたご意見を今後の図書館運営やサービスの充実に生かしていきます。図書館協議会はどなたでも傍聴できます。

開催日時など詳細は [こちら](#)

注目のとりぐみ

学校教育

部活動地域展開が進行中 —ハラスメント防止研修会を開催—

部活動や地域クラブの指導者の方々にハラスメントに対する正しい理解を深めていただくため、8月28日(金)に研修会を開催しました。当日は講師として市教育委員会と連携している株式会社松本山雅より専門の方をお迎えし、50名が参加しました。

研修ではテーマに沿ったグループワークも行われ、参加者が自身の経験を交えて意見を交わすなど、ハラスメント防止についての学びを深める貴重な機会となりました。

教育委員会では、ハラスメントのない安全・安心なスポーツや文化芸術環境の実現を目指し、今後も指導者向けの研修を定期的開催してまいります。

感想やご意見などをお寄せください。
連絡先: 安曇野市教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
Mail: gakkoukyouiku@city.azumino.nagano.jp



つぶやき

「なつのはな」知ってますか？

お盆に孫たちが来た時の話、
部屋から不思議な歌が聞こえてきました。
「へびはニョロニョロ、セミにおしっこかけられた」・・・園児と小学生3人が声を合わせて歌います。後日、こども園での園庭の芝生お披露目式でも、子どもたちがこの歌を牛遊びを交えて歌ってくれました。「なつはとってもすてきな～ほんとにうれしいな～」と、芝生の完成を喜び気持ちがストレートに伝わりました。(ka)

市内認定こども園 年中組のお便りから

毎日貼っているシールが9月になり、
その中にすずむしのシールがあったので、
何の虫か聞いてみると、「はち」の9月だから
秋の虫で「りんりん」と鳴くとヒントを出すと、
「みんなみんぞみ!」・・・みーんみーんじゃなくて
りんりんと言っていると、「りんりんぞみ!」・・・
大ヒントで「す」を言うと「す?」の
大ヒントで、「す・ず」と言うと
「す・ず・・・すずめ!!」・・・
もう、虫じゃないよね!



安曇野市立認定こども園・幼稚園・小中学校グランドデザイン（試行版）



安曇野市立小・中学校、認定こども園・幼稚園連携一覧表

地域名	中学校名	小学校名	こども園・幼稚園名
豊科	豊科南中学校 豊科北中学校	豊科南小学校 豊科北小学校 豊科東小学校	豊科認定こども園 豊科南部認定こども園 南穂高認定こども園 たつみ認定こども園 アルプス認定こども園 上川手認定こども園
穂高	穂高東中学校 穂高西中学校	穂高南小学校 穂高北小学校 穂高西小学校	有明の森認定こども園 有明あおぞら認定こども園 西穂高認定こども園 北穂高認定こども園 穂高認定こども園 穂高幼稚園
三郷	三郷中学校	三郷小学校	三郷北部認定こども園 三郷南部認定こども園 三郷東部認定こども園 三郷西部認定こども園
堀金	堀金中学校	堀金小学校	堀金認定こども園
明科	明科中学校	明南小学校 明北小学校	明科北認定こども園 明科南認定こども園
計	7校	10校	19園

R8.9.2 現在

【ミニ解説】園小接続カリキュラム（幼保小の円滑な接続）とは

文部科学省は、令和4年度から、5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」と位置づけ、幼児期の遊びや学びを小学校の生活や各教科へスムーズにつなげるため「幼保小の架け橋プログラム」を提唱しています。この計画では、立場を越えた連携により、子どもの負担を減らし「小1プロブレム」を解消することを目指すとしています。就学前の5歳児から小学校1年生修了までの2年間（架け橋期）に、アプローチカリキュラムとして、幼稚園・保育所・認定こども園等における、就学を見通した5歳児の学びの計画や、スタートカリキュラムとして、小学校1年生の生活科などを中心に、幼児期の体験を生かす柔軟な学習計画を具体化することなどを挙げ、園と小との円滑な接続を丁寧に進めることが大事であることが示されています。

安曇野市でもすでにさまざまな工夫した取り組みが行われています。互いの実践に学びながら、きるところからその充実に努めていきます。